



## 2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 東洋水産株式会社  
 コード番号 2875 URL <https://www.maruchan.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 今村 将也  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 松本 千代子 TEL 03-3458-5246  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月13日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	306,121	2.2	19,797	△11.2	21,655	△9.9	14,736	△9.4
2018年3月期第3四半期	299,479	1.7	22,306	△8.0	24,045	△6.9	16,273	△5.7

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 18,514百万円 (△6.8%) 2018年3月期第3四半期 19,854百万円 (△6.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	144.30	—
2018年3月期第3四半期	159.34	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	387,649	303,118	75.4
2018年3月期	371,842	290,881	75.3

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 292,120百万円 2018年3月期 279,907百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年3月期については遡及適用後の数値を記載しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2019年3月期	—	30.00	—	—	—
2019年3月期（予想）	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	405,000	4.2	25,500	△4.3	27,500	△3.8	19,100	3.6	187.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社 （社名）－、除外 一社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	110,881,044株	2018年3月期	110,881,044株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	8,752,134株	2018年3月期	8,751,898株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	102,129,080株	2018年3月期3Q	102,129,322株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示方法の変更）

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果や雇用・所得環境の改善が続き、緩やかな回復基調で推移しましたが、通商問題の動向が世界経済に与える影響や海外経済の不確実性、金融資本市場の変動により景気が下振れするリスクも依然として存在しております。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むとともに、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は306,121百万円（前年同四半期比2.2%増）、営業利益は19,797百万円（前年同四半期比11.2%減）、経常利益は21,655百万円（前年同四半期比9.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は14,736百万円（前年同四半期比9.4%減）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の為替換算レートは、111.02円/米ドル（前第3四半期連結累計期間は、113.00円/米ドル）であります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

水産食品事業は、鮭鱒・魚卵・サバ等の海外魚種における継続的な魚価高騰及び日本近海魚のサバ・イカ等の漁獲不漁からの魚価高騰要因が見られる中で、適正価格での販売に努めましたが、鮭鱒・魚卵・マグロ製品を中心に販売数量が減少しました。その結果、売上高は23,138百万円（前年同四半期比5.4%減）となりました。セグメント利益は251百万円（前年同四半期比29.2%減）となりました。

海外即席麺事業は、米国では新学期セールや大陳企画等の店頭販促の強化、SNS等を活用したマーケティング活動の強化により、主力製品の袋麺「Ramen」、カップ麺「Instant Lunch」が好調に推移したことに加え、新フレーバーを積極投入した「Yakisoba」「Bowl」シリーズも上乘せとなり、増収となりました。メキシコでは、現地通貨の為替レートが安定して推移する中、主力製品であるカップ麺の受注が問屋ルートで好調に推移し、増収となりました。その結果、売上高は61,307百万円（前年同四半期比7.4%増）となりました。セグメント利益は、販売数量の増加による利益増要因はありましたが、原材料費や人件費、物流費の増加により6,778百万円（前年同四半期比19.4%減）となりました。

国内即席麺事業は、カップ麺では発売40周年記念のプロモーションを実施した「赤いきつねうどん」「緑のためき天そば」等の和風シリーズに加え、シリーズ新商品を発売した「MARUCHAN QTTA」や「ごつ盛り」が好調に推移したことにより増収となりました。袋麺では「マルちゃん正麺」シリーズで新フレーバーを投入する等需要喚起に努めたものの、減収となりました。その結果、売上高は98,351百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。セグメント利益は、物流費の増加等はありませんでしたが、広告宣伝費の削減等により6,831百万円（前年同四半期比1.4%増）となりました。

低温食品事業は、生麺では主力商品の「マルちゃん焼そば3人前」シリーズが堅調に推移したことに加え、野菜がおいしく食べられる新商品「パリパリ無限」シリーズ、水でほぐすだけの新商品「つるやか」シリーズ、前年度に立ち上げた「コクの一滴」シリーズが大きく伸ばしたことにより増収となりました。チルド・冷凍食品類ではコラボレート商品や期間限定商品等の新商品、市販用の「ライスバーガー」が好調に推移しました。その結果、売上高は52,778百万円（前年同四半期比0.7%増）となりました。セグメント利益は、原材料費等の増加により3,667百万円（前年同四半期比11.1%減）となりました。

加工食品事業は、米飯やフリーズドライ製品ではライフスタイルの変化に伴う喫食機会の増加によって市場が拡大する中、新工場稼働により生産能力の向上を実現しました。そうした中で、新商品の発売や消費者キャンペーンを実施する等積極的に販促活動を行ったことにより増収となりました。その結果、売上高は17,212百万円（前年同四半期比6.5%増）となりました。セグメント損失は、新工場稼働に伴う減価償却費等の増加により590百万円（前年同四半期はセグメント利益327百万円）となりました。

冷蔵事業は、2018年3月に操業を開始した平和島冷蔵庫が順調に稼働していることに加え、積極的な営業活動により、新規及び既存顧客に対する冷凍食品を中心とした取扱いや通関・運送等の付帯業務の取扱いが堅調に推移しました。その結果、売上高は14,100百万円（前年同四半期比3.7%増）となりました。セグメント利益は、人件費等の増加により1,690百万円（前年同四半期比1.7%減）となりました。

その他は、主に弁当・惣菜事業であります。売上高は39,231百万円（前年同四半期比6.1%増）、セグメント利益は1,648百万円（前年同四半期比26.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比べ総資産は15,806百万円増加し387,649百万円、純資産は12,237百万円増加し303,118百万円となりました。この主な変動要因は、以下のとおりであります。

資産は、主に現金及び預金、受取手形及び売掛金、建物及び構築物、機械装置及び運搬具が増加し、有価証券が減少しました。負債は、主に支払手形及び買掛金が増加しました。純資産は、主に利益剰余金、為替換算調整勘定が増加しました。

この結果、自己資本比率は75.4%となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度については遡及適用して比較分析をしております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関する事項につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績が想定していた範囲内で推移しているため、2018年5月11日に発表しました見通しを変更しておりません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	75,770	80,437
受取手形及び売掛金	54,161	65,242
有価証券	43,000	32,000
商品及び製品	18,281	18,003
仕掛品	329	331
原材料及び貯蔵品	5,214	6,578
その他	4,409	3,796
貸倒引当金	△402	△603
流動資産合計	200,763	205,786
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	57,777	62,818
機械装置及び運搬具(純額)	30,516	33,897
土地	35,345	35,617
リース資産(純額)	2,974	2,799
建設仮勘定	8,305	11,583
その他(純額)	1,179	1,355
有形固定資産合計	136,098	148,071
無形固定資産		
その他	1,738	1,724
無形固定資産合計	1,738	1,724
投資その他の資産		
投資有価証券	31,316	29,965
繰延税金資産	993	1,108
退職給付に係る資産	70	79
その他	1,192	912
貸倒引当金	△331	—
投資その他の資産合計	33,241	32,066
固定資産合計	171,078	181,862
資産合計	371,842	387,649

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,036	29,285
短期借入金	285	382
リース債務	229	255
未払費用	21,082	21,965
未払法人税等	2,614	1,364
役員賞与引当金	66	38
固定資産撤去費用引当金	16	—
その他	2,744	2,671
流動負債合計	53,075	55,964
固定負債		
リース債務	3,766	3,717
繰延税金負債	2,432	3,180
役員退職慰労引当金	279	293
退職給付に係る負債	19,231	18,884
資産除去債務	215	215
その他	1,960	2,273
固定負債合計	27,885	28,566
負債合計	80,961	84,530
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,942	22,942
利益剰余金	240,580	249,189
自己株式	△8,227	△8,228
株主資本合計	274,265	282,873
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,680	9,063
繰延ヘッジ損益	△39	△22
為替換算調整勘定	△1,941	2,077
退職給付に係る調整累計額	△2,057	△1,871
その他の包括利益累計額合計	5,642	9,247
非支配株主持分	10,974	10,997
純資産合計	290,881	303,118
負債純資産合計	371,842	387,649

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	299,479	306,121
売上原価	185,791	192,728
売上総利益	113,687	113,393
販売費及び一般管理費	91,380	93,595
営業利益	22,306	19,797
営業外収益		
受取利息	831	1,200
受取配当金	415	438
持分法による投資利益	112	125
賃貸収入	253	252
為替差益	71	—
雑収入	520	414
営業外収益合計	2,206	2,431
営業外費用		
支払利息	195	189
賃貸収入原価	46	38
支払補償費	88	11
為替差損	—	9
貸倒引当金繰入額	41	191
雑損失	95	132
営業外費用合計	467	573
経常利益	24,045	21,655
特別利益		
固定資産売却益	34	10
投資有価証券売却益	0	232
補助金収入	—	250
その他	3	81
特別利益合計	38	574
特別損失		
固定資産除売却損	664	262
関係会社株式評価損	145	—
減損損失	10	176
災害による損失	—	128
その他	3	48
特別損失合計	824	616
税金等調整前四半期純利益	23,259	21,613
法人税、住民税及び事業税	6,973	5,526
法人税等調整額	△316	899
法人税等合計	6,656	6,426
四半期純利益	16,603	15,187
非支配株主に帰属する四半期純利益	329	450
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,273	14,736



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	16,603	15,187
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,346	△884
繰延ヘッジ損益	7	17
為替換算調整勘定	637	4,019
退職給付に係る調整額	220	204
持分法適用会社に対する持分相当額	39	△29
その他の包括利益合計	3,251	3,327
四半期包括利益	19,854	18,514
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,268	18,342
非支配株主に係る四半期包括利益	586	171

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	24,472	57,061	98,801	52,414	16,162	13,598	262,510	36,968	299,479	—	299,479
セグメント間の内部 売上高又は振替高	768	—	—	—	—	749	1,518	182	1,700	△1,700	—
計	25,240	57,061	98,801	52,414	16,162	14,347	264,028	37,151	301,179	△1,700	299,479
セグメント利益	354	8,413	6,739	4,126	327	1,719	21,681	1,303	22,985	△678	22,306

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益の調整額△678百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△876百万円、棚卸資産の調整額△30百万円及びその他の調整額228百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に決算時における海外子会社からのノウハウ料相殺消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

金額的重要性が乏しいため記載を省略しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	23,138	61,307	98,351	52,778	17,212	14,100	266,890	39,231	306,121	—	306,121
セグメント間の内部 売上高又は振替高	799	—	—	—	—	794	1,593	67	1,661	△1,661	—
計	23,938	61,307	98,351	52,778	17,212	14,894	268,483	39,299	307,782	△1,661	306,121
セグメント利益又は 損失(△)	251	6,778	6,831	3,667	△590	1,690	18,627	1,648	20,276	△479	19,797

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△479百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△889百万円、棚卸資産の調整額24百万円及びその他の調整額386百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に決算時における海外子会社からのノウハウ料相殺消去額であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

金額的重要性が乏しいため記載を省略しております。